

第62回全日本女子剣道選手権
初優勝

KOSHI NEWS

令和6年 冬号

子どもたちに
夢や希望
市民の誇りに

合志市市民栄誉賞

わたなべ

渡邊 夕イ

(合志市出身・熊本県警)



合志市
ホームページ



合志市公式X
(旧Twitter)



令和6年仕事始め式

令和6年が始まり、1月4日、合志市役所では『仕事始め式』を行いました。

荒木市長は、石川県で発生した『令和6年能登半島地震』で犠牲となった方へのお悔やみと、被災者へのお見舞いの言葉を述べました。そして、「知恵と工夫やチームワークで激動の1年を乗り切りたい」などと職員に訓示しました。



地域社会の発展を目的に連携

ゆめマート熊本と包括連携協定を締結



協定書を持つ株式会社ゆめマート熊本・藤木淳代表取締役（右）と荒木市長

令和5年12月8日、合志市は、株式会社ゆめマート熊本と、包括連携協定を結びました。株式会社ゆめマート熊本は、合志市合生にて開発が進む『かすみヶ丘地区』において、令和6年春に出店を予定しています。同地区の住民を中心とした地域住民の生活に密着した施設となることから、地域社会の発展を目的として、本市との相互連携・協力体制を構築するため協定を結んだものです。協定内容は、“地域の防災、安全・安心に関すること”、“健康増進・食育に関すること”、“高齢者及び障がい者支援”、“子育て支援に関すること”、“市政情報の発信に関すること”、“その他、地域の活性化及び市民サービスの向上に関すること”の5項目です。

締結式では、株式会社ゆめマート熊本の藤木淳代表取締役と、荒木市長が協定書に署名しました。藤木代表取締役は、「勢いのある合志市で仕事ができることを光栄に思っています」と挨拶。荒木市長は、「今回の出店は地域の皆さんに、歩いて買い物に行けると、喜んでいただいています。さらに協定をきっかけに、地域の健康づくり、夢づくりにご支援いただければありがたいです」と述べました。

合志市での営農を適正かつ円滑に実施へ

アグリテックレイメイと協定を締結



協定書を持つ株式会社アグリテックレイメイ・藤井章生社長（中央左）と 山本雅裕副社長（中央右）
立会人の熊本県県北広域本部・厚地昭仁本部長（右）、荒木市長

1月11日、合志市は、株式会社アグリテックレイメイと、農業参入に伴う地域調和等に関する協定を結びました。株式会社アグリテックレイメイは、合志市で1月より農業に参入し、IoTやドローンなどで培った技術を生かした“スマート農業”を実践します。そこで、適正かつ円滑な営農を実施するため協定を結んだものです。協定内容は、“株式会社アグリテックレイメイの営農及び市の支援・協力に関すること”、“地域農業における役割分担に関すること”、“環境保全への協力に関すること”、“地域振興への協力に関すること”、“雇用の確保における地元優先に関すること”、“地域社会との調和に関すること”の6項目です。

締結式では、株式会社アグリテックレイメイの藤井章生社長と、荒木市長、立会人の熊本県から県北広域本部の厚地昭仁本部長が協定書に署名しました。藤井社長は、「“スマート農業”が浸透するよう、合志市の農家と一緒に頑張っていきます」と挨拶。荒木市長は、「数量や質を上げるために、データなどを生かした農業を進めることで、高齢化する農家をサポートすることもできます。大きな成果が得られるよう、本市として連携していきます」と述べました。



“風呂上がりに 極上の一杯を” 牛乳消費拡大キャンペーン

年末年始は学校給食がなく、家庭でもあまり飲まれないなど、牛乳の消費量が少なくなります。また、酪農業は、燃油や資材、飼料の高騰で厳しい状況にあります。

そこで、1月4日から3日間、ユープレス弁天で『牛乳消費拡大キャンペーン』が行われました。熊本酪農業協同組合から提供された牛乳を各日先着300人に配布し、「家庭で牛乳を日常的に飲んで、酪農業を応援しよう」と呼びかけました。



地元の魅力再発見、愛着深めるためのアトラクションも

令和六年 二十歳を祝う会

1月7日、市総合体育館メインアリーナで『令和六年 合志市二十歳を祝う会』を開催しました。

今年は、平成15年4月2日から平成16年4月1日までに生まれた763人が二十歳を迎えます。式典は、二十歳を迎える人たちの代表による実行委員会が企画・運営しました。

式典のはじめに能登半島地震で犠牲となった方々に黙とうを捧げました。その後、二十歳を代表して村田^{むらた}怜^{れいな}さんが、「私たちは中学校に入学した直後に熊本地震、高校1年生の終わりからは新型コロナウイルスによるさまざまな制限を経験しました。これからは私たちが、大きな困難があっても諦めずに進んでいける大人になる番だと、身の引き締まる思いです。これからも人と人との温かく繋がり続ける地域を守り、恩返しができるよう精進していきます」と、誓いの言葉を述べました。

第2部では、中学時代の先生たちが登壇し、お祝いのメッセージを贈りました。

また、今回、実行委員会は、合志市への愛着が深まり、“地元に残りたい”、“貢献したい”と思う人が増えるよう、地元店舗や企業の紹介を企画。二十歳の皆さんに寄せられたお祝いのメッセージを動画で放映したほか、協賛を受け、特産品や商品券などが当たる『こうしアイシテル抽選会』を行いました。

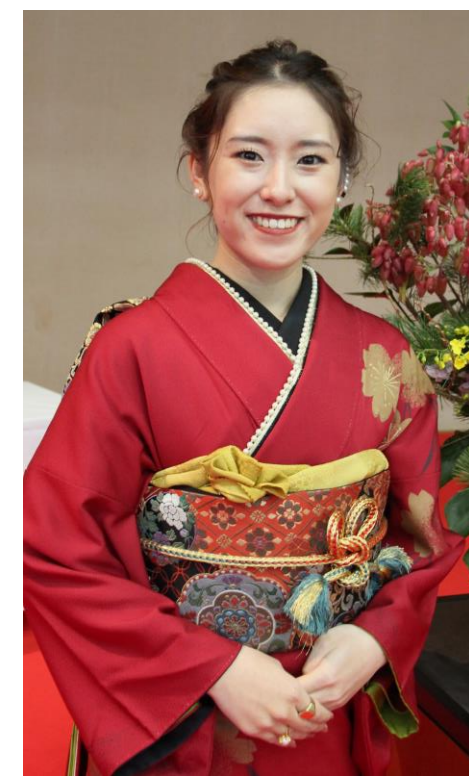


会場の内外は、色とりどりの晴れ着や、スーツ姿の参加者で華やかな雰囲気。久しぶりに会った友人たちとスマートフォンで一緒に写真を撮ったり、中学校の恩師との再会し、昔の話に花を咲かせたりする様子が見られました。二十歳という人生の節目を迎えた皆さんは、地元愛に満ちた祝う会での喜びや感謝を胸に、人生の新たな一歩を踏み出しました。





同級生や恩師と…
笑顔で再会
懐かしく楽しいひと時



合志市出身！ 期待のアスリートも
二十歳に

二十歳を祝う会には、いずれも合志中学校の出身でプロゴルファーの竹田麗央さん、サッカーの元U-19日本代表ゴールキーパーの佐藤瑠星さん（筑波大学蹴球部）も出席しました。同級生と笑顔で再会していた2人。さらなる活躍を期待しています！



たけだりお
竹田麗央さん

さとうりゅうせい
佐藤瑠星さん





菊池恵楓園絵画クラブ 金曜会作品展

菊池恵楓園の絵画クラブ『きんようかい金陽会』の作品展が合志楓の森小・中学校で開かれ、令和5年12月2日、3日に一般に公開されました。

自由に外に出ることができなかつた入所者の皆さんが、故郷や思い出の情景を独学で描いた、現在まで残る貴重な絵画作品の総数は900点余り。今回は、児童の要望で“花”を題材とした24点が展示され、訪れた人が見入っていました。



ひまわり公園にサンタが大集合!? 『Koshi Santa Festival』

『健幸都市こうし』デジタルキッチンプロジェクトとして、12月16日、17日に、合志市御代志のひまわり公園で『Koshi Santa Festival』が開催されました。会場にはキッチンカーが集まり、行列が出来ていたほか、ステージイベントで盛り上がりました。

また、手作りの衣装で着飾るなど、サンタの格好をした子どもたちが大勢集まり、厳しい寒さの中でしたが楽しいひと時を過ごしていました。



広報を“広報する”企画展

『広報こうしと“仲間たち”』

人口増が続く合志市では情報発信の強化に取り組んでいます。そこで、月刊広報紙『広報こうし』や『KOSHI NEWS』などの広報媒体を改めて知ってもらおうと、1月10日まで市総合センター『ヴィーブル』で企画展を開催しました。

会場では、『広報こうし』の歩みや、ホームページだけで公開中の広報媒体などを紹介。1月7日の『二十歳を祝う会』の前後には、『広報こうし』に掲載した成人式を振り返る展示も実施しました。



卒業前に地域との繋がりを学ぶ 西合志中学校で郷土料理教室

令和5年12月、西合志中学校の3年生が、郷土料理作りを体験しました。

これは、地元につながる郷土料理と、地域とのつながりについて学ぶ授業の一環で行われたものです。講師役は、合志市食生活改善推進員の皆さん。あんもちだご汁の作り方を教わり、完成後は一緒に味わっていました。郷土料理作りは、4クラス毎に4回にわたって行われました。



日本画家・坂本幸重さんの作品母校に 合志中学校に絵画寄贈

令和5年12月22日、合志中学校に、同校出身の日本画家・坂本幸重さんの絵画『鮭』が寄贈されました。

寄贈者は野口経俊さんで、親族が合志中学校で坂本さんの担任だったご縁もあり、実現しました。寄贈式には、野口さんの娘の松田千里さんが出席し、中島教育長が感謝状を贈りました。



『もぐら打ち』に『どんどや』 小正月の伝統行事

合志市内の各地では無病息災や豊作を願う、小正月の伝統行事が行われました。

1月13日に辻区で行われたのは『もぐら打ち』（写真上段）。地元の子もたちが、昔から伝わる掛け声とともに、わらを巻いた木の枝で各家庭の庭先を叩いて回りました。一方、永江団地で行われたのは『どんどや』です（写真下段）。竹で組まれたやぐらに火をつけ、しめ縄などを焚き上げた他、ぜんざいの振舞いが行われました。

第62回全日本女子剣道選手権 初優勝



わたなべ 渡邊タイ選手に 合志市市民栄誉賞



令和5年11月23日、合志市は、本市出身で、『第62回全日本女子剣道選手権大会』で初優勝した渡邊タイ選手（熊本県警）に、『合志市市民栄誉賞』を授与しました。

渡邊選手は、西合志南小学校、西合志南中学校を卒業。小学1年生の時に剣道を始めました。第16回（平成27年）、第17回（平成30年）の世界剣道選手権大会で、日本代表選手として団体優勝に貢献したほか、令和元年に行われた全国警察剣道選手権大会で個人優勝するなど、輝かしい成績を収めてきました。そして、令和5年9月、熊本県代表として9回目の出場となった『第62回全日本女子剣道選手権大会』で初優勝を果たし、日本の頂点に立ちました。



本市は、「強さのみならず、礼儀作法も求められる剣道において幼少期より日々鍛錬を続け、全日本女子剣道選手権大会で悲願の優勝を果たしたその姿は、多くの子どもたちに夢や希望を与え、市民の誇りになった」として、『合志市市民栄誉賞』を授与することを決めました。授与は、優勝祝賀会の場で行い、荒木市長が、「不屈の

精神で積み重ねた努力の結果、1人しか立てない頂点に立たれました。これからさらに飛躍することを心から期待しています」と祝辞を述べ、渡邊選手に『合志市市民栄誉賞』の表彰状と表彰盾を贈りました。



渡邊選手は、「今回の優勝は、皆さんのお力添えあつてのことと思っています。合志市市民栄誉賞をいただき、身の引き締まる思いです。賞の名に恥じないよう、努力していきます」と謝辞を述べました。



市民栄誉賞授与から1か月後の12月26日、渡邊選手は荒木市長を表敬訪問しました。令和6年は全日本2連覇と、7月にイタリアで開催される世界選手権で頂点に立つことが目標の渡邊選手。荒木市長は、「気を引き締めて頑張ってください」と激励しました。